

地球の「いきいき」のために

環境活動を支える仕組みを整えます

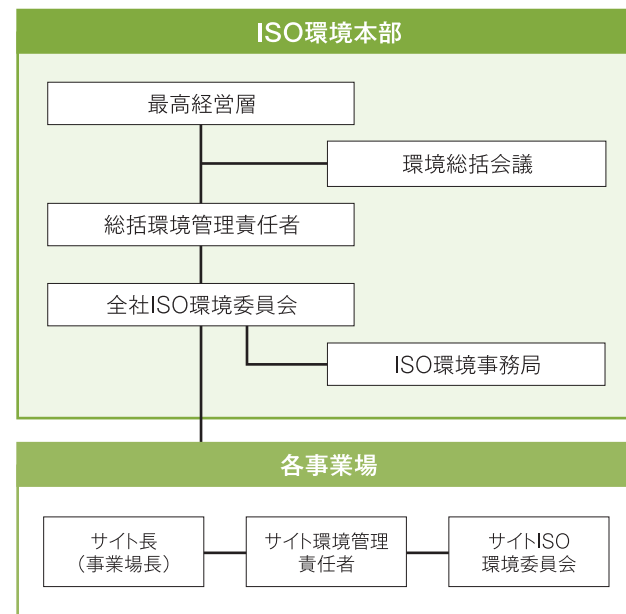
ISO14001の統合認証を取得し、全社が一丸となって環境活動を推進できる体制をとっています。

宝グループ環境マネジメントシステム組織図

宝酒造では2002年度までに全工場、全支社、本社（同一ビルに入居している（株）トータルマネジメントビジネス、宝ネットワークシステム（株）を含む）でISO14001の認証取得を完了しました。そして2005年1月には統合認証を取得し、ISO環境本部を中心に中期経営計画とISO14001の目標を連携させるなど、経営と直結した目標に向かって活動しています。

各事業場では、環境管理責任者が中心となり具体的な活動を推進しています。

6:ISO14001、9001取得年表



環境関連法規遵守状況

環境汚染の未然防止の観点から、法令遵守はもとより自主基準やガイドラインを設定し、環境管理に取り組んでいます。ISO14001のシステムを有効に利用して定期的なチェックを実施し、法令遵守状況を確認しています。なお2007年度は、排水処理において基準値の超過が1件ありましたが、再発防止の措置を行いました。

主要な環境関連法規

公害関係法規（大気、水質、騒音、振動、土壌汚染、悪臭）、廃棄物処理関係法規、化学物質管理関係法規（PRTR法、毒物劇物取締法）、リサイクル関係法規（容器包装リサイクル法、食品リサイクル法、資源リサイクル法）、防災・危険物関係法規 など

エコ京都21マイスター認定（伏見工場）

再資源化率99%以上を6年間達成したことにより、京都府からエコ京都21（京都・環境を守り育てる事業所等）の「循環型社会形成部門」マイスター認定を受けました。

伏見工場では20種類の廃棄物ごとに保管と処理の責任者を任命し、分別回収の徹底、廃棄物の再資源化の推進、排水処理余剰汚泥の減容化に取り組んでいます。



認定証

環境会計

2007年度の環境コストは、地球環境への負荷を減らすために取り組んでいる省エネ活動や資源循環活動の費用、環境設備導入のための投資の割合が高くなっています。前年度と比較すると、排水処理設備の増強やボイラー排ガス設備の更新などにかかる公害防止コストや、地球温暖化問題へ対応するための地球環境保全コストが増加しています。

そのほかには、中身を消費した後の容器包装のリサイクルを進めるための上流・下流コストや、法令や規制を遵守するためにかかる管理活動コストなどがあります。さらに事業活動以外では、環境部門が実施している「お米とお酒の学校」などの環境教育や、ペロタクシーなど地球温暖化の防止に貢献するNPOを支援する社会活動コストがあります。

（集計範囲:宝酒造単体、2007年度対象期間:2007年4月1日～2008年3月31日、単位:千円）

分類	主な取り組みの内容	2007年度		
		投資額	費用額	
(1) 主たる事業活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（事業エリア内コスト）		296,076	494,011	
内訳	① 公害防止コスト	排水処理設備増強、ボイラー設備更新、賦課金等	149,178	261,340
	② 地球環境保全コスト	蒸気配管・バルブ保温、排熱回収設備、冷蔵、冷凍設備の更新等	75,593	38,482
	③ 資源循環コスト	飼料化設備の増強、廃棄物リサイクル設備の整備等	71,305	194,188
(2) 主たる事業活動に伴ってその上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（上・下流コスト）	はかり売り用タンク購入、再商品化委託費用、リターナブル	9,328	261,548	
(3) 管理活動における環境保全コスト（管理活動コスト）	環境マネジメントシステムの整備・運用、環境広告等	10,358	296,015	
(4) 研究開発活動における環境保全コスト（研究開発コスト）	製品等の製造段階における環境負荷の抑制のための研究開発	0	384	
(5) 社会活動における環境保全コスト（社会活動コスト）	お米とお酒の学校、ペロタクシー、芝生スクール京都等	0	19,106	
(6) 環境損傷に対応するコスト（環境損傷コスト）	産業廃棄物適正処理推進基金	0	50	
合計		315,762	1,071,114	

※分類は環境会計ガイドライン2005年版による 7:その他の環境会計



排水処理設備



天然ガス（CNG）フォークリフト



焼酎かす飼料化設備